

この度は当社・研究所にご興味をお持ち頂きまして、誠にありがとうございます。

当社サービス「Analytics Systems FXSE」は、皆様が同等の為替分析AIを新たに開発される場合と比較して安価となる、年間72万円（税抜）で販売しております。それでも、一般的には高価なサービスであると言えます。

このような高価なサービスを導入される際、サービス提供企業の信用力や経営状況、サービス自体の信頼性は非常に大きな判断ポイントになるかと存じます。

そこで当ご案内では、皆様が感じられるご懸念点について、当社が講じている対応、および研究開発・経営手法について記載しております。皆様のご不安を払拭する一助となれば幸いです。

企業体について Corporation

アナリティクス・システムズは、サービス提供を行う「日本アナシス合同会社」と、研究開発を行う私設研究所「Analytics Systems Laboratories」で構成されています。私設研究所では、流体力学や金融予測に関する研究の他、日本アナシスで使用する基幹業務システム・自動送信システムの開発、毎週の推論計算・提供用データ作成や閲覧ソフトFXSEの開発、ウェブサイト構築も行っております。

【サービス提供会社】

会社名	日本アナシス合同会社
設立	2025年2月26日
所在地	大阪府大阪市北区梅田1丁目2-2 大阪駅前第2ビル12-12
事業	コンピュータソフトウェアの企画開発、 為替予測・分析サービスの提供

【研究開発部門】

運営形態	私設研究所
創立	1999年8月23日
研究内容	高度並列計算・流体抵抗予測・金融予測

※機密保護のため、私設研究所の所在地、および
研究開発員情報は非公開とさせて頂いております

日本アナシス合同会社
Nihon AnaSys LLC

Analytics Systems Laboratories



当社の実体と資金状況 Company Description

大阪府内に、研究開発・事業運営の実拠点が存在します

研究内容の性質上、機密保護のため所在地をバーチャルオフィスとさせて頂いておりますが、本社所在地とは別に、研究開発・事業運営の拠点が大阪府内に存在します。

600坪の敷地に庭園と池、頑強なコンクリート造の建物を配した、創造性豊かな拠点です。主幹研究員の1親等親族が所有する施設のため、財務面の負担も少なくなっております。

完全無借金・極低コスト運営で、安定・安心の資金状況です

現在でも研究開発は私設研究所が行っており、当社は販売した場合にライセンス料を支払う形態です。そのため当社は研究開発費の負担がなく、Green-AIテクノロジーによる非常に低コストな予測計算と相まって、極めて出費の少ない運営になっております。

また、私設研究所側も100%自己資金で運営されており、設備導入・研究開発にかかる費用は全てキャッシュにより支払済（クレジットカード分は引当済）で、安心の完全無借金運営です。

他社のAI・計算サービスに依存しておりません

外部のクラウドサービスを用いてAI計算や生成を行っている場合、提供会社の価格改定やサービス変更・終了に、自社サービスが影響を受けてしまいます。また、自前でAI計算や予測開発を行っている場合でも、その費用負担に耐え切れなくなる事が少なくありません。

当社では、新技術により低コスト化を実現した予測計算を、自社保有の設備で行っております。そのため、他社サービスに影響されたり、過大な負担に耐え切れなくなったりすることがなく、安定したサービス提供が可能です。

耐災害性の高い拠点と、予測計算システムを保有しています

当社拠点の大阪事業所は、地震・水害・火災に対して耐性の高い拠点となっております。

- ・水はけが良く津波・河川氾濫に強い高台にあり、土地を削って地盤整備を行いました。
- ・(株)大建設の監修による、鉄筋コンクリート造の耐震耐火建造物を配置しております。
- ・隣接地との間には防火樹木帯を設けて、延焼被害を防止しています。

また、万が一大阪事業所が使用できなくなった場合でも、Green-AIテクノロジーで構成されたAI予測計算システムは、ごく一般的なコンピュータで運用可能ですので業務継続が容易です。

沿革 History

流体抵抗・コンピュータテクノロジーの私設研究所として設立されて25年、金融予測の研究を開始して18年の歴史がございます。次ページにて、私設研究所の略歴をご案内いたします。



沿革

History

Computer Technology —

1999

私設研究所として発足、
Sun ULTRA1 ワークステーションを導入

1CPUから64CPUまで同一アーキテクチャの為、
将来の拡がりに期待してSunのマシンを導入
サブプライムローンの組成マシンと同じタイプ

2002

Sun ULTRA80 ワークステーション導入

まだ一般的なPCのメモリが256MBであった中、
4CPU/4GBメモリの大容量機を導入

2004

Sun ULTRA80 ワークステーション追加導入

複数マシン並列計算用に、同型機種を追加導入
4CPU/4GBメモリの2ノード並行計算へ
※スカラー型スーパーコンピュータの原型

IBM xSeries205/他 6セット導入

x86環境での複数マシン並列計算、および
グローバルファイルシステム用に導入

2008

富士通 PRIMEPOWER250 導入

JAXA(宇宙航空研究開発機構)や京都大学が
導入していた上位機のスーパーコンピュータ
「富士通PRIMEPOWER HPC2500」使用への
道筋とすべく導入

2010

hp ProLiant ML115G5 2セット導入

筑波大学・東京大学・京都大学のT2K Open
スーパーコンピュータの原型となる構成
AMD 4Core(2.3GHz) /8GBメモリの2セット

2013

富士通 SPARC Enterprise M3000 導入

JAXAや京都大学が導入していた、上位機のスーパー
コンピュータ「富士通 SPARC Enterprise M9000」や
有名な「理化学研究所 京コンピュータ」使用への
道筋とすべく導入

2018

x64完全独立ノードによる並行計算に移行

同時に、スーパーコンピュータ志向から180度転換し、
複雑な計算をいかに簡単に近似するかを第一に考える
方針に変更、Green-AIテクノロジーの基礎となる

※2019年以降の使用機器・設備は
非公開となっております。

Computational Finance —

2007

民生応用として金融予測を開始

手始めに、レートの数字変化だけで予測する、
チャート・テクニカル分析手法を採用。
当たる時・当たらない時の差が著しい点が課題に。

2009～2011

“為替レートを動かしているものは何か”
をテーマに原理視点からの研究を開始

レート予測に使用できないか、銀行間・短資市場や
経済指標・ファンダメンタルについて研究開始。
また、金融端末(Bloomberg端末・ロイター端末)を
眺めて、1日の取引の機微(時刻・参加者)を観察。

2012

CFTC投機ポジションとの連動を研究開始

投機分析研究で、同じ「悪い経済指標」でも、市場が
「悪い傾向」と受け取るか「予想よりは悪くない」と
受け取るかの予測が可能に。
2017～2019年のボックス相場で著しい成果を上げる。

2015～

中期の為替を動かす“実需”の研究に着手

実需企業(輸入/輸出会社・サービス)の支払手法・
タイミングについて、実務に携わって観察を実施。
実務に携わることで、数字を見るだけではなく、現場
の空気感や意思決定プロセスまで観察が可能に。
2022年に予測の糸口を発見する手掛かりとなった。

2020～2021

実需予測の重要性を再確認

テクニカルや投機ポジションだけでは、ボックス相場
以外の大きな流れには呑みこまれてしまい、中期予測
としては役に立たないことが確実に。原理原則に立ち
戻り、実需と為替レートの連動についての研究を強化。

2022

実需データによる為替予測に目処がつく

実需データによる有効な予測計算の糸口を発見、
改良の過程で新しい統計処理手法を開発。
処理パラメータ数が非常に多く、多数の組み合わせ
計算になるため、AIを用いて適合パラメータを算出。

2023

FXSE予測エンジンが完成

実需統計の解析処理に、商社の実務を反映した
ロジックを加味し、FXSE予測エンジンが完成。



資産・情報の保護施策

Asset Protection

お客様資産の保護

ご購入頂いたお客様の資産を保護する為に、安価な海賊版が出回らない様、安易なリバースエンジニアリングを抑止する技術を採用して、お客様・当社双方の資産を守っています。

原理的に確実な情報セキュリティ

原則、機密情報系はオフラインで運用しております。お客様管理システムと予測計算システムの存在をインターネット上から消す事で、情報セキュリティを高めています。

社会貢献活動

Social Contributions

Green-AI テクノロジー

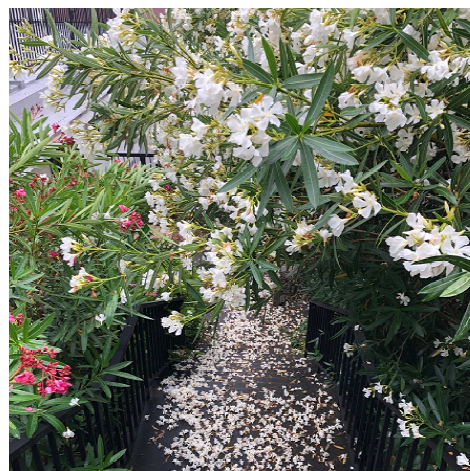
一般的にAIシステムは電力を多く消費するため、環境破壊の原因になる事が懸念されます。Analytics Systems研究所では“やみくも”にAI計算するのではなく、理論の裏付けのもとで最低限の計算を行い、使用電力を抑えております。環境破壊を低減できる、地球に優しいテクノロジーです。

樹木保護

環境保護の観点から、大阪事業所では樹木が生い茂ったエリアを多く確保しております。大気中のCO2を吸収し、緑の葉で夏場の高温を抑える、1石2鳥の環境活動です。

寄 付

当社は「子供達は未来を支える存在であるので、社会全体で面倒をみるべき」と考えています。子ども食堂運営団体(KATARiBA)や日本財団に、定期寄付を行っています。



～研究棟周囲の防火樹～
初夏に花が咲き、外通路は美しい花の回廊になります



～過去に研究開発で使用していた機器～



左) Sun Microsystems・富士通製SPARC機材 / 右) IBM・hp製 x86・x64機材